

来場台数500台オーバーの大規模イベント 四国&中国地方の絶版車ユーザーの熱さを実感!!

関東や関西では絶版車関連のイベントが数多く行われているのに、なぜ四国で開催されないの？ 四国の絶版車乗りは大鳴門橋を走って本州に向かうのになぜ？ そんなシンブルな疑問から、今年3回目が開催されたのが徳島絶版バイクミーティングである。イベントの主催者は絶版車部品の販売とカフェレーサーカスタムに強い徳島県徳島市のBRC。

本州との定期フェリー便の発着場でもある沖洲マリンターミナル駐車場を会場に、カスタムバイクショップやパーツメーカー、車両販売店など絶版車にまつわる26社がブースを出展。ゴールデンウィーク中で曇りつつ無い晴天となったイベント当日は、四国や関西、中国地方から絶版車が続々と集結。今回は西日本ヨフォアミーティングとのジョイント開催となったこともあり、中型〜大型までざっと500台以上の参加者が集まり、午前10時から午後3時まで会場は大いに賑わっていた。

来場車の傾向を見るとノーマルスタイルやレストア車は少数派で、ハンドルやマフラー、足回りやカウル装着など大がかりなカスタム車が多いのが印象的だった。またカワサキZシリーズが多く、絶版車人気の高さが実感できた。



和歌山〜徳島のフェリーで参加した TAKEさん&ハイミーさん。ノーマルルックと見せかけて、小柄なハイミーさんに合わせたシャコタン仕様の Z1 もさることながら、黒火の玉のグレー部分を立体的なグラフィックで仕上げた TAKEさんのタンクも素敵。



西日本ヨフォアミーティングに参加したユーザーのお目当ては、レストアからレーサーまでヨフォアで幅広い車両製作を行うアゲイン。賑わっています。



イベントホームページ上では「暴走族を連想させる車両」「旧車會仕様」の車両は入場お断りし明記。同じ場所で継続的に開催するにはモラルが必要だ。



部品、オイル、用品にも絶版車イベントならではの特長が。この製品は純正ヒューズと取り替えるとノンヒューズブレーカーになる。



ロケットカウルの形状や取り付け方にもいろんなパターンがある。こういう現場で多くのバイクを見るとカスタムの参考にもなる。



ハヤシレーシングやビートキャストにショート管という車両が多い中、オーリンズにプレンボのハイテックカスタムも登場。

第3回 徳島絶版バイクミーティング

◎2016年5月1日
◎徳島県徳島市 沖洲マリンターミナル駐車場

取材協力 / BRC <http://www.brcinc.co.jp>



会場ではMCを務めた大塚亜美ちゃんと、徳島県のマスコットキャラクター「すだちくん」。中の人があるさやババかった、なんてことはアリマセン。



九州から来たZ1タイガーのエンジンは、晴天の下で直視できないほどのキラキラ仕上げ。指と割り箸と根性の磨き!! と聞いて二度ビックリ。